

サロン通信

第13号



R3.10.29 発行
発行元
 三条市社会福祉協議会
 地域福祉係
 電話:0256(33)8511
 FAX:0256(33)3004

実施状況等に関するアンケート結果について

9月2日付けでお願いしました、「ふれあい・いきいきサロン実施状況等に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。

70のサロンからご回答をいただきました。(回答率92%)
 集計結果をお知らせいたします。

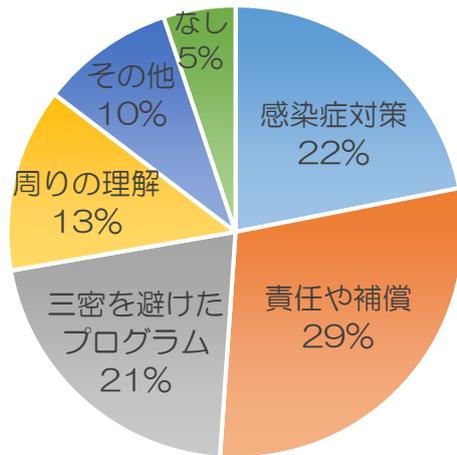


Q1 感染症拡大下のなか、サロン活動をするうえで心配なことや困りごとはありますか。

A1 回答結果は、円グラフのとおりです。

半数以上のサロンが今の感染症対策でいいのか、感染者が出

たら、サロンの責任なの？と不安を抱きながら開催されていることがわかりました。



また、その他のご意見として、開催日が近づくにつれて心配でよく眠れない。

◆思うように開催することができず、認知症の進行など不安が増える。

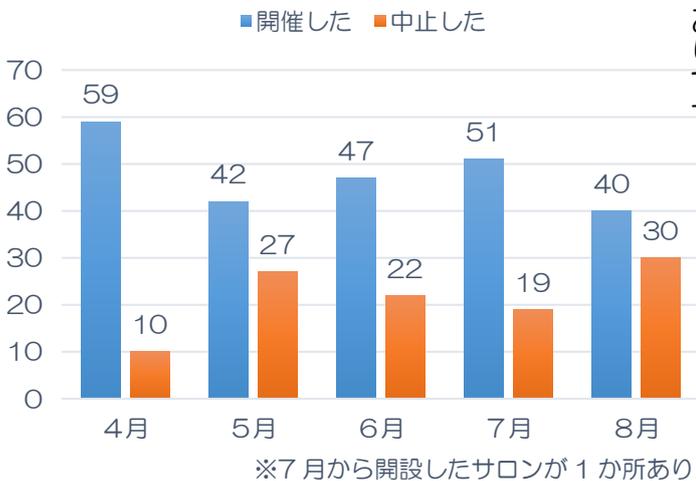
◆参加者が多いので、密集してしまう。



◆感染症対策には理解してもらい活動している。感染した場合は個人の責任と伝えているが心配はつきない。
 ◆県外の親類が泊まった時、どのくらい日数を空けたら参加しやすいのか聞かれて困った。などがありました。

Q2 集会所等を集ってサロン活動をした月についてお答えください。

A2 回答結果は棒グラフのとおりです。



すべて中止したところが8サロン、逆に、毎月開催したところは、34サロンありました。

9月は、お聞きしませんでした。が、新潟県全域に特別警報が発令されたこともあり、休止されたサロンが多かったようです。



Q3 集まってサロン活動をするうえで、基本の感染症対策の他に、行った工夫があればお聞かせください。

A3 次のような回答がありました。

- ◆空気清浄機、アクリル板を使用。
- ◆トイレ使用後は、ドアノブや便座など、参加者が自ら消毒。
- ◆開催日近くと当日に、市内の感染者情報をふまえ、スタッフと開催するかどうかを決める。
- ◆風食は、持参のおにぎりやパンを黙食。各自の責任で参加と伝えている。
- ◆全員の熱を測る。
- ◆お茶はペットボトル。



◆ コーヒーなどはマイカップを持参してもらい、お菓子の提供は控えている。

◆ マイカップから紙コップに変更。お菓子は個包装にしているが、持ち帰る人が多い。

◆ 密にならないように、体操など、広がって実施する。

◆ 4月は室外での「花見」

◆ 天気の良いときは屋外で活動。

◆ さんちゃん健康体操の後、茶話会が長くならないよう、紙芝居や筋トしなどをし、短時間で解散する。などがありました。

多くのサロンが、基本の感染症対策は、しっかりと実施されているようです。

きちんと対策をしているのであれば、万が一、開催後に感染者が出たとしても、サロンが周りから何か言われることはないと思います。

※なお、当会で加入している保険ですが、感染症は補償の対象になりません。



Q4 サロン活動を休止する代わりに、行った取り組みなどがあればお聞かせください。

A4 次のような回答がありました。

◆ 活動中止のお知らせを電話でし、少しだが話をした。

◆ スタッフだけ集まり、近況などを報告し、心配な参加者がいたら訪問したり、電話をかけて話をした。

◆ ひとり暮らしの人には、電話をしたり訪問した。

◆ 手作りのお弁当をスタッフが参加者に配り、話をした。

◆ スタッフで手分けをして参加者宅にお菓子を配り、近況などを聞いた。

◆ 休止した月に誕生日を迎える参加者に、誕生日プレゼントを持参し話をした。

◆ サロンを開催する予定だった日に、電話で元気確認をした。

◆ 筋トしやストレッチなど、家庭で簡単にできるチラシを配布した。

◆ 不定期だがサロン独自でお便

りを作成し、参加者に配布した。
◆ 会場が狭いので、月1回開催を2回に増やし、2つのグループに分かれて活動するようにした。などがありました。

集まることができなくても、様々な方法でつながりが途切れないように工夫されているサロンが多くありました。

電話をした時に、参加者の「やってみたいこと」も募集してみてもいいかもしれません。



Q5 集まってサロン活動を実施できないことで感じたこと、参加者から寄せられた声などありましたらお聞かせください。

A5 次のような回答がありました。

◆ 万が一開催したことで、感染者が出てクラスターが発生したらと考えるととても怖い。

◆ 考え方に個人差があり、開催の決定にも様々な思いがある。

◆ 参加者の健康を確認できず、心配。

◆ 「話や身体を動かすことが少なくなり、うんと老化が進んだようだ。」との声が多かった。

◆ 「ボケ」ばかりが進んでいくようで本当に不安。早く開催してもらえるといい。

◆ 休止が続くと、スタッフの行動パターンやリズムにも乱れが生じるようで、意欲や気力の低下が気になる。

◆ 「サロンに来るのが楽しい。中止しないでほしい。」との声があるため、参加者が1人でもいたら実施したいと思っている。

◆ 早く皆さんと会いたい。
◆ いつも家にばかりいると退屈でしようがない。

◆ 外出を控えていると、気持ちが暗くなる。

◆ 参加者からは開催してほしいと言われたが、三条市内の感染者が減らず、不安で中止した。

◆ 地域の集まりも中止になっっているため、サロンだけ活動することは難しい。などがありました。



どの地域でも、休止の間に、周りから早く開催してほしいとの声が多くあったことがわかりました。

Q6 他のサロンに聞いてみたいことはありますか。

A6 次のような質問がありました。

◆開催するかどうか、何を基準に決めているか。

◆コロナ禍の後、活動内容が変わったか。

◆コロナ禍になって、飲食はしているか。

◆どんなことを実施しているのか。

◆活動に際して一番重要視されていることは。

◆苦労されていることは。

◆スタッフの役割の範囲は。

◆参加者は、どんな会の運営を希望されているのか。

◆これからの活動に際しての希望。

◆参加者を増やすために工夫していることは何か。

以上の質問については、何かの機会に皆さんにお返しできたらと考えております。

Q7 当会に望む必要だと感じる支援はありますか。

A7 次のようなご意見がありました。

◆開催については、各サロンに対応を委ねられている状況だが、ある程度の目安を示してもらいたい。

◆サロンの開催がどんな状況か、社協から声かけなど、状況把握と情報提供などがあるとよい。

↓ サロンから、「開催してもいいか」との問い合わせがあったときは、県や市の制限を基準にお話しし、最終決定はスタッフの皆さんで相談していただくようお願いしています。

ある程度の目安を設けることもできないわけではないですが、会場の大きさ、参加人数や内容

など、各サロンによって条件が異なることから、当会で一律に休止や開催をお示しはしていません。

無理のない範囲で開催していただけるとうれしいです。



◆活動は休止や縮小しているが、運営経費はかかっている。助成金を返還しなくていいようお願いしたい。

↓ 助成金の取り扱いについては、昨年度と同様に、新潟県の注意報または警報が発令中の期間は、活動を休止させていても返還はなしとします。その助成金で、感染症対策の品物やレクリエーション用具を購入していただいで構いません。

なお、参加者への電話や訪問、チラシによるお知らせなどの活動を全く行わなかった月がある場合は、その月の助成金を返還いただくことがあります。

報告の際に、活動内容がわかるように控えておいていただきたいと思ひます。



**みんなが安心して
参加できるサロン**

今回のアンケート結果の中に、自分たちの活動に取り入れられるものがあれば、ぜひ活用していただきたいと思います。

これからも、コロナウイルス感染症と共存していくことを考えると、自分たちに合った新たな方法を取り入れ、つながりを絶やさないようにしていくことが大事です。

当会では、これからも皆さんが安心して活動ができるように、支援をしていきますので、何かありましたらいつでもご相談をいただきたいと思います。

編集後記

『ポッチャ』が東京パラリンピックで注目を浴びてから、貸し出し回数が増えました。

畳の上でもできますので、「やってみたい!」と思われたら、いつでもご連絡ください。みんな楽しんでみましょう。(W)

